



# はなのき通信

2021年10月 発行 第149号

編集・発行：あいち国際交流はなのき会

URL <http://www.aichinet.ne.jp/~hananoki/>

Eメール [hananoki@aichinet.ne.jp](mailto:hananoki@aichinet.ne.jp)

## はなのきセミナーⅡ 30人参加！

### 「笑う門には福来る」 狂言で気分一新

東京オリンピックが始まろうとしている7月22日、尾張ブロック主催はなのき国内スタディツアーとして狂言の鑑賞会が開催されました。

名古屋城正門前の名古屋能楽堂は世界最大だそうで、日本建築の粋を集めた立派な建物には気後れさえ覚えましたが、建物の中に入った時の清涼感は暑い中を歩いてきた私へのご褒美でした。能舞台の鏡板に描かれた杉本健吉画伯の若松がまだ描かれたばかりのように青々と輝いていて、思わず見入ってしまいます。



この日は野村又三郎さんのお弟子さんたちの発表会ということで、出演者は子どもさんからベテランの方、セリフだけの方までレベルは様々。背景やセットも小道具もない舞台には動きと言葉だけで、その簡潔なセリフのやりとりが面白く、だからこそセリフに集中して引き込まれる、これが狂言の醍醐味なのか、と少しだけ分かったつもりになりました。

今まで、狂言を伝統芸能の中でも、能の前座のようなものとしか考えていなかったことが悔やまれます。今回、多くの演目を実際に見る機会を得て幸いでした。

客席には着物姿の方たちも多く、夏の暑さや終わりの見えないコロナ禍を忘れてしまうような優美な世界を堪能させて頂きました。 (尾張ブロック 谷中 ひさ子)



### 古来の日本文化を楽しむ

遑って1976年のころ、私がラボパーティという団体の一員になった時です。

10周年を記念して、古来の日本文化である狂言「三本柱」「柿山伏」が発刊されました。先代の野村万蔵、野村万之丞、野村万作、野村万之介の錚々たるメンバーの日本語に感動しましたが、重厚な感じの日本語に対応する英語がとても面白かったことを思い出します。例えば、「早う出さしめ」「心得た」を、英語では、”Come quickly.” “Sure.” なんと軽やかなのでしょうか。日本の古典芸能、古典文学がこのような形で外国に紹介されるなんて、素敵だなと思いました。狂言の所作の美しさにも魅了されました。

その頃、子ども達や、大人の狂言グループも生まれました。それが、如月会で、先代の野村又三郎先生のご指導の下、先生のお宅で毎年発表会が開催され解説等をお聞きするのが楽しみでした。

その後、年月を経て、也留舞会に合流となったようです。身体に故障を抱えながらも、狂言を愛し、頑張っている友人たちを私は心から尊敬し、誇りに思っています。 (尾張ブロック 栗田 昌子)

(はなのきセミナーⅡは栗田さんの企画提案で実現いたしました。ありがとうございました。)

## 参加者からの感想です。

360年と続いている狂言を名古屋能楽堂で鑑賞しました。  
二部からは、はなのき会員30名で会場を埋めました。ありがとうございました。

私は初めて狂言を鑑賞させて頂き、とても衝撃を受けました。  
身体から伝わる笑い、人間の隠れた本能を突く表現に見入りました。  
興味深く感動した時間が、360年もの間この笑いが生活の一部だったと思うと、  
不思議な空間にいる様な心地よい時間を頂きました。(尾張ブロック 尾関 幸代)

かなり前列で鑑賞しました。演じている方の息遣い・緊張感などが伝わってきました。  
生徒さんと講師の先生との温かみやとりが伝わりほっこりしました。  
野村又三郎先生の演舞は迫力があり、身体全体で演じる姿に躍動感を間近で感じ感動しました。

(尾張ブロック 浅井 恵子)



## 西三河ブロック主催 オンラインセミナー

### カンボジア「内戦後の混乱の修復」



日時：2021年9月18日(土) 13:00~14:30

参加者人数 25名

講師：金森正臣氏(愛知教育大学名誉教授、元 CIESF カンボジアオフィス副代表)

1999年から約20年間、カンボジアにおける理数科教員養成改善計画に JICA 専門(生物)として参加。日本と行き来しながら、カンボジアの教育、学校設立のために尽力された。

金森先生がカンボジアに渡った当初、武力による内戦は一旦区切りとなっていた。しかし、カンボジアの内戦は複雑で、複数の派閥が存在し各派は複雑に離合集散した。誰が敵か味方か分からない状況にあり修復に大きな影を落としていた。戸籍や土地台帳もなく、入学は小学校長の裁量で行われたが落第や学校に来なくなるなど退学率が高く問題であった。地雷を除去した土地にトタン屋根の学校。1~3年生と4~6年生で2つに区切られただけの教室がスライドに映し出された。地域格差が大きく貧困問題があり、親は出稼ぎで不在なため常に子どもたちは働いているという実態であった。学校設立の他には、カンボジア留学生の指導や日本の大学の理科教員の協力支援を働きかけるなど、日本と現地の両サイドでの支援活動も行われた。

カンボジアの復興に理数科教育の必要性を強く感じ、長年に亘る支援を続けられたことに私たちは驚嘆と尊敬の念を抱いた。セミナー後半は質疑応答に移り次々と質問があった。「はなのき会としてカンボジアに継続的支援をしていくための留意点は？」に対し「現地をよく理解する」「しっかりした団体と組む」などのアドバイスがあった。



会員の小鹿さんの紹介で講演が決まり準備を進めた  
が、新型コロナ感染第5波による緊急事態宣言の発出  
と延長。急遽、リモートによる講演会に変更した。

当会ではリモートによる講演会は初めてである。画面に参加者が揃ったとき、繋がった喜びに沸いた。

(西三河ブロック：杉浦 昌代)



The

# 議員

皆さん、ご存じですか。はなのき会には、議員さん(現役・経験者)がたくさんいらっしゃいます。議員さんのどきどきドキュメンタリーをどうぞお読みくださいませ。

※149号と150号に数名ほど掲載予定です。全員分は2021年度活動報告に掲載いたします。



## 伊藤 久代さん 元東栄町議会議員 任期 平成15年より4期16年

愛知県地域婦人会の(当時会員110,000人)会長を経験していたせいで、町民の皆さんには知られた存在であった。私の住む地域は男性が進歩的というか、たまたま他に適当な方が見えなかったのか、おじさんたちが我が家に押し寄せて議員に出て

くれと懇願された。おじさんたちからは、「男にも怯まず堂々と意見を言えるから気に入った。」そうで、「じゃあ、おじさんたちのためにも頑張るか。」という乗りで議員に立候補し、12人中3位という好成績で議員の道を歩き始めることになった。チャンスはどんなところに転がっているか分からないものである。

### <加配教員の確保>

16年の間には、町村合併問題、学校統合問題、環境問題、病院問題、子育て支援問題等、心休まる時は一日も無かった。そのくらいわが町には問題が山積していた。その中で私が議員になって初めて取り組んだことが、学校統合によって複式学級から単式学級への移行による、児童の授業日数の欠落の問題であった。

地元の小学校の校長先生を訪問すると、「困った、何とも成らん。助けてくれ。」と話し出され、学校統合の1年前に単式授業に対応するためのカリキュラムを作らなければならないが、加配の先生をお願いしなくてはならない。町長に言ってもわかってくれない。教育長も、自分で何とかしろみたいなことを言う。何か良い方法はないものか。とのことだった。私は直ぐに一般質問をしたが、町長の答えは、教頭先生が見れば良いのではないか。また、同僚の元先生だった議員には、そんな前例のないことをばかばかしい。どこの学校も統合していくときは飛ばしていくんだよ。と言われてしまった。愛知県の教育委員会に事の次第を話して、加配教員をお願いするも、前例がない。そして、あなたはただの議員である。そういう時には決定権のある方を味方につけて来なさいと教えてもらった。そこで、先ず校長会長さんに話すと、たいへん心配して頂き、どこの学校でも小さなところはこの問題が起こる。

一緒に頑張ろうと言ってくれた。校長会の会議にもかけていただき、話が進んでいったが、それまでには紆余曲折があり、簡単に一年が過ぎてしまった。私は手を変え品を変えて、一般質問で加配教員の確保について質疑をした。

あまりの粘りに、教育長、教育委員長も動き出してくれ、月小学校、中設楽小学校掛け持ちで1名の先生派遣のお願いを出してくれることになった。それでも町長が動かず、2年目を迎え、あとが無くなったので、PTAの両校の幹部を呼んで、もし、愛知県より先生の派遣が無かったら、町独自で先生を確保して頂くように請願書を出そうと話すと了解を得た。区長さんの所に行き、請願書の提出者になってほしい。私が議員として仲介役になるからとお願いした。パソコンの中に請願書を作り、何時でも行動ができるようになった時、教育長たちが、やっと町長を口説き、県に出向くことが出来た。4年目の4月、中設楽小学校、月小学校に1名ずつ加配の先生を頂くことが出来た。ガラスの天井ごときではなく正に鋼鉄の天井を突き破った瞬間であった。学校統合による加配教員の確保については、今では愛知県中の学校で申請を出せば利用できることになった。前例が出来た瞬間でもあった。



## 井上 恭子さん 常滑市議会議員 任期 平成19年より4期目15年

まちづくりの会でいろいろな行事に係わる中、地域で計画される工事のほとんどが市民の知らないうちに決定され、遂行されていった。決定権のある政治に関われば市民の声が届けられるのではないかという思い。また、現場で働く人は女性でありながら、決定権の場所にいるのは常に男性であり、そのギャップを是正できればという思いで立候補した。

### 今政治の世界に必要なのは女性議員

#### ー政治を自分ごとにしようー

地盤、カバン、看板がないため、最初の投票結果は21人中後ろから3番目であった。議員になり市役所初登庁の時から、同じ地域から出ている先輩議員からヤジられ、それ以来最大会派からパワハラの対象となり、それが現在まで続き、役職は与えられず、孤独な議員生活が続くのである。現在は2人会派となり、少しは和らいできた。

まず、議会に入って驚いたことは、会議で議員は行政に対して質問するのみで、議員同士で議論をしないことであった。自民系がつくる最大会派の大半の議員は質問をしなかった。それは後で分かったことであるが、すべての議案に対して100%賛成をするからである。そんな議会であったため、本来の議員の役割を模索するために、外部で行われる「議員の勉強会」に参加した。疑問と思うことは質問をしようと思い、14年間一度も欠かすことなく一般質問を行った。また、議会の情報を市民に知らせることが仕事であると思い、「きょう子通信」を2000部刷りポスティングを始め、今では9000枚にもなり、この新聞のお陰で議員の地位が確立したと思っている。後、議会ごとに議会報告会、駅頭報告なども行ってきた。市民と共に行動する議員として、新市庁舎建設時、4階であった計画を3階にしたり、議員のイニシャル入りのテラコッタを廃止したり、電気を変える計画で電気料金削減、ごみ減量の推進をした。議員の醍醐味は、議場での一般質問と討論であり、そこで発言したことを行政が認め、実現できていく事である。最近一般質問を考えている時間が一番ワクワクするのである。

最大会派のおじ様たちが女性や少数派議員を辞職勧告や懲罰に追いやっている。しかし議員たちは全く根拠のない理不尽な理由のため裁判を起し、勝訴が確定した議員もいる。これで今の議会がいかに異常な世界かお分かりであろう。今、議会の仕事は子育て、介護などの福祉、医療などが主流であるため、現場にいる女性が議会に必要である。そんな議会を変えるためには、投票する市民、国民が政治を自分ごとにすることであり、まずは議会の傍聴をしてください。女性議員を増やすために。

お知らせ

◆9/18・10/9・11/20 運営委員会開催

◆11/20 (土) あいち男女共同参画フォーラム

◆11/27 (土) はなのきセミナーⅢ JICA 中部にて 愛知県海外青年協力隊を支援する会との共催  
テーマ「楽しく学ぼう多文化共生」の講師3名による対談形式で行われる。

メーリングリストなどで情報を発信しております。

ぜひご参加くださいませ。

(編集後記) 夏は緊急事態宣言発令。はなのき会の活動は前年同様、柔軟に行われております。西三河主催のセミナーはZOOMで実施。スタディツアーは残念ながら中止。ご準備いただいた皆様ありがとうございます。まだコロナに翻弄されていますが、はなのきペースで頑張りましょう。書記一同